

被解雇者、清算事業団、 営業協議会、各支部つって一丸

鉄道労連解体



1988.7.18
No. 2857

拡大支部代行



千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二・二二七二・七〇七

国鉄千葉動力車労働組合

組織強化へ！

七月一四日、十八時より支部代表者会議が開催され、七、八月を組織強化月間とし、四波五次にわたるストライキでつちかった団結をさらに打ち固め、各支部・営業協議会・清算事業団・争議団の組織強化をかちとり、当局の出方いかんでは、直ちにストに突入する態勢を堅持していく方針を決定し、各支部・各地区営業協議会代表が全員で意思統一をかちとった。

ストの成果を打ち固め、 団結強化を！

会議は山口副委員長長の司会で始められ、冒頭、挨拶に立った中野委員長は、
「五・一八からの反撃のストライキは、全支部の取り組みで圧倒的に成功し、当局を蹂躪し、大きな打撃を与えた。たまたかいは、永続的だ。戦術はわれわれが決める。敵の出方しだいでは、いついかなる時でもストに入る。」

「各支部とも役員が強制配転されている。七、八月を組織強化・拡大月間として支部執行体制、日常活動の強化をかちとる。」と、当面する闘いを明確にした後に、
「世界情勢がますます危機を深め、日帝も混乱している中で、JR東日本も当局・革マル連合の構造がきしんでいる。鉄道労連解体のチャンスが来た。」

「国労大会は重要だ。修善寺大会方針をなしくづ的に路線転換し、清算事業団五千名を切り捨てようとしている。労働組合としては首肯り撤回以外にない。奪還しよう。」
「カナメ商事を強化し、財政基盤を勝ちとろう。」と、力強い挨拶がなされた。

続いて基調提起へと移り、布施書記長は「五、六月連続闘争で千名を越す動員を勝ちとり、分割・民営後一年、われわれの怒りを結集した闘いは千葉支社を圧倒し、大きな打撃を与えた。それゆえ運転の職制はますます狂暴化に走っている。今後も敵の攻撃意図が変わらぬかぎり、長期波状スト路線を堅持し、闘う。」と、闘いの総括がなされ、続いて、

- 一、五、六月闘争の高揚と勝利を組織強化に結びつけ、闘いの意義と勝利の確信を全体化する。
- 二、夏季輸送後開始されることが必至の、京葉線・新習志野からの動労千葉、国労排除を狙った強制配転攻撃を粉砕する。
- 三、「昇職試験」「主任以上面接」などを利用して差別支配を許さず、具体的な反撃を展開すると当面する闘争方針が出され、基調の最後に具体的取り組みが提起され、討論の後、これらの方針を全員一致で確認し終了した。

厚木基地も人間の輪で 包囲する7/24行動

7月24日
神奈川県厚木基地
= 指定列車 =
千葉駅 9、10番
9時集合
(9:21、快後尾)

厚木基地 面積五千五百四十四平方町の米海軍基地で大和、綾瀬の両市にまたがるが、両市のほか座間、海老名市にも大きな影響を及ぼす。海軍航空施設のほか、西太平洋艦隊航空隊司令部が駐留し、主に米海軍と海上自衛隊の作戦・補給基地として機能している。

全組合員家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！